

## 『近未来—日本の可能性』(第19回)～朝鮮半島、東アジアの5年後と我が国の目覚め～

国際情勢は緊迫の度合いをますます強めているが、皇室は歴史時間を超越しておられる。6月、陛下のインドネシア行幸啓 カリパタ墓地英靈の墓に供花。これは戦後初めて。残留日本人兵士の子孫は、「天皇陛下が残留日本兵のことを見えていてくれて、とても嬉しい、ありがとうございます」と話した。

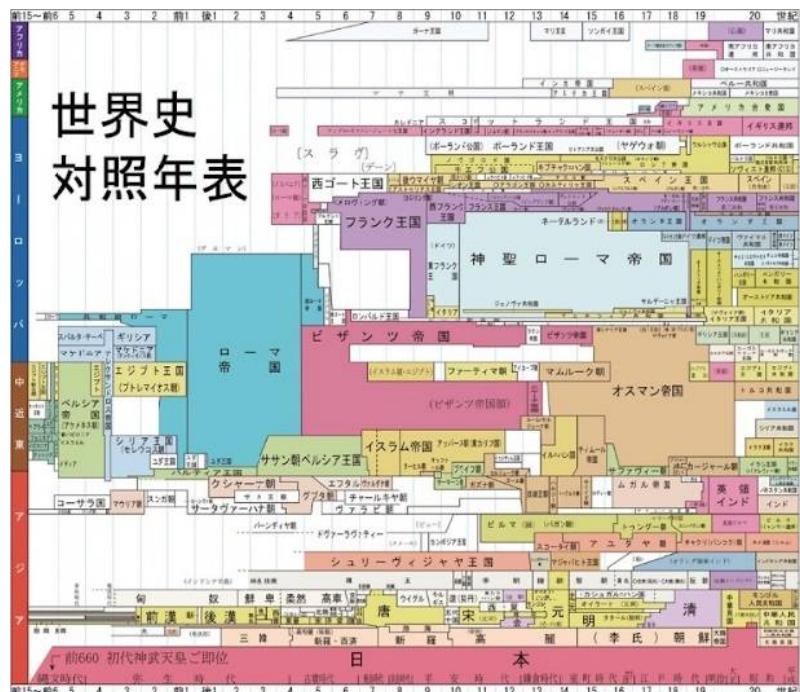
インドネシア独立宣言文の日付 17-8-‘05.05 は言うまでもなく皇紀2605年のこと。

続いて、9月秋篠宮皇嗣殿下のベトナム訪問(ベトナムは平成29年、2017年上皇陛下が最初)。残留日本兵の子孫と親しく懇談された。そのまま残って対米戦争を指導した方の子孫もいるはず。11月陛下の親書を携えての佳子さまペルー公式訪問。陛下に報告。陛下は世界平和をお祈りされながらも、何が起きても(戦争になつても)大丈夫なように、国民を守ることに、心を碎いてくださっている。

ベトナム国家主席夫妻皇居に国賓として。7分の会話。  
英国最高裁長官を皇居に招待。  
昨年4月、大分で「世界水サミット」。陛下のご講演も重要。

陛下と故安倍元首相の「憲法」を巡る重要な事柄。今上陛下が、高御座に昇られて、即位されたときの、安倍首相の対応のこと。陛下は、「憲法」を守ると仰ったが、「日本国憲法」を守るとは仰らなかつた。しかし安倍首相は…

### 世界史対照年表



令和は特別の時代。令和の間に我が国は完全に目覚める。今上陛下の御時に日本も世界も変わる。



年は皇紀2683年。

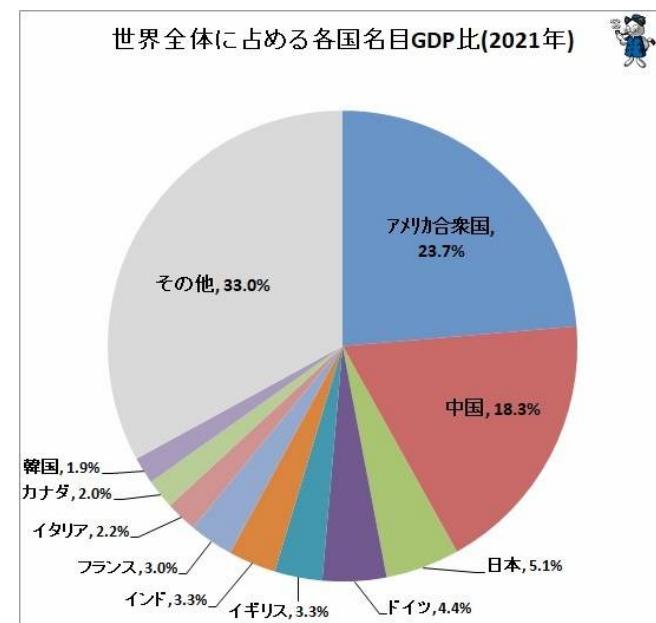
直近の重大事項。欧米はEV拡大は無理と気づいた。CO2の責任はチャイナ。石炭火力はダメ、しかし日本の高度技術は別。脱中国でチャイナを追い詰め。

(復習)。現在は、世界戦国時代である。それは昨年2月24日、国連常任理事国のロシアが、核恫喝をしながら、ウクライナに攻め込んで始まった。国連は実質消滅した。大東亜戦争終戦から77年で、一つの時代が終わり、完全な「戦国時代」に入った。恐らくこれから77年ほど、この「世界戦国時代」は続く。

世界史年表で最も重要なこと。日本だけが不滅であり、終わりなき世。世界史の奇跡である。日本の存在は次元が違う。今

ところでユダヤ人も奇跡の民族。バビロン捕囚(前597年、前586年)2630年前。イエスのころはローマの属国。イエスを処刑したのはローマの総督ピラト。(なお、それ以前BC740頃、アッシリアによる捕囚)

中東は日本と対局の地政学環境。通路の上に国家を立てている。ペルシャも、トルコも、イラクも、エジプトも、シリアも、大帝国の記憶を持つ。皆、本当はそこは俺の土地だと思っている。



世界はずっと戦国時代で、それを超克できた文明は我が日本文明だけ。

我々が間違わなかったら、77年後には我が国が「徳川家康」になる。

この冬に台湾有事=日本有事の可能性がある。キャンプデービッド日米韓首脳会談正解。

門脇朝秀翁のこと。奉天特務機関。アメリカ、ユダヤ、イスラム、どう見ておられたか。日本の特務はアングロサクソンの特務とは違う。

ウクライナ、パレスチナ、台湾有事なら3正面対応をアメリカはせねばならない。

多分、我が国一国でチャイナと対峙することになる。我が国は一刻も早く原潜の、「核シェアリングを」。

アメリカに断られたら、英國に打診せよ。英國の原潜修理もおぼつかない、日本が手助けするチャンス。

『非核3原則』のままで行ける。英國は「日英同盟」を強く望んでいる。

一気に核戦争などにはならないから、事変が勃発して、日本を核攻撃したら、直ちに自身も100パーセント核攻撃の報復があると、相手に確信を持たせるようにできるかどうかが我が国の安全保障にとって最も重要。そういうことをすれば対中戦争にならない。自滅まで追い詰める。

我が国の核対応力こそが世界平和を作る。

結論から言って我が国はこの危機を必ず乗り越えられるし、そのような政治家は必ず出る。

令和は人類最高級の人材が日本から頻出。大谷翔平、藤井聰太、吉村妃鞠「HIMARI」(2023.08.12、前澤友作氏から HIMARI さんへ、1717 年製作の黄金期を代表するストラディヴァリウス「ハンマ」の貸与が実現)

日本語は左脳で虫の声を聴く。日本語が母語ならそうなる。

ヤン・ヨーステン、ウイリアムアダムス(三浦按針)鎖国していなかつたら？ 大東亜戦争に勝っていたら？想像すべき。

① 世界的天変地異、噴火、地震、そして人災が続く。世界的天変地異と、人間世界の乱れは常にパラレル。

③木原稔防衛大臣。台湾は絶対守り抜く。

- ④ ウクライナ戦争がどうなろうと、ロシアは、弱いことが分かってしまった。。
- ⑤ 台湾潜水艦自力開発良し。我が国の潜水艦。南シナ海。
- ⑥ 我が国の精強な軍事力が世界平和に必須。台湾有事で、我が国は一瞬で目覚める。間に合う。
- ⑦ 潜水艦と、イージス艦の役割。第一列島線への敵艦の封じ込めは、我が国潜水艦の役割。
- ⑧ (重要)ウクライナ戦争でほぼ確実になったこと。核兵器は、サラミ作戦で進める戦争では使えない。要するに、『終末核戦争』の可能性が激減した。チャイナもこのことを前提に戦争を計画する。→我が国核武装の死活的重要性。
- ⑨ 日米同盟だけに頼らず、日英同盟復活を考え、射程に入れなければならない。戦闘機共同開発で、日英同盟はもうスタートしている。イタリアの一帯一路脱退良し。トルコですら、米国の核をシェアしている。憲法改正より、先に戦争だかもしない
- ⑩ 皇室は本当に、本気で2700年を見据えておられる。「戦後日本」はそのほんの一部。。
- ⑪ 将来日本が一番付き合うのは、要するに大東亜戦争で太平洋に最も戦線を広げた時の占領地の国々である。イスラム教徒が圧倒的に多い。(LGBT問題など、G7内部のこと。イスラム圏の国と深く付き合う将来、意味がなくなる。しかも日本だけ法制化した。アメリカ大使けしからん。日本をピエロにする悪意。G7での振る舞いとは別に、我が国は大戦略を持つべし
- ただ、欧米は、人権一般に関する普遍的な立法が目立つ。「人権」課題に入れると国家の責務が発生する。我が国は個別法方式。この点は、我が国は適切に進んでいる。
- ⑫ ウラル山脈以東の、新しい歴史が始まる。
- ⑬ サハリン2などの石油は本来我が国のもである。⑮チャイナ崩壊後は、朝鮮半島は統一される。
- ⑭ 半島情勢。11年ぶりに韓国大統領は「拉致問題」に取り組む党の方針。曾我ひとみさんと駐日大使会談。
- ⑮ トランプだったら、ウクライナ戦争はなかった。イスラエル、ハマスの戦争もなかつたかもしれない。
- しかしそうも、「大東亜戦争」に我が国が勝っていたら。負けていなかつたら、世界の今の悲劇は何分の一で済んだのではないかと思われる。いつもそこまで戻って考えるべき。
- ⑯ 日本が北方領土を、実力で奪還する気配を見せるような国だったら、ウクライナ戦争はなかつた。すでに憲法改正し、国軍となっていたら、ウクライナ戦争はなかつた。ロシアは日本が怖くて勝手なことはできない。本当は今もそうなのだが。⑯最近中核派で面白い発言があった。ひろゆきと、洞と言う女性市議。現内閣が核武装計画あるとの話。
- ⑰ シェアリング。その約束をするだけでよい。英米海軍、どちらかの潜水艦の核シェアリングならすぐできる。南木案と同等のことを著作で述べてくれているのは、高橋洋一先生だけ。書籍『高橋洋一のファクトチェック』
- ⑱ 並行宇宙、多元宇宙論なら、過去まで変わるということもある。(ベートーベンの肖像画。音楽室にあった。昔は羽ペンを持っていた。全世界の絵が、鉛筆に変わっている。過去が書き換えられている。)不思議。この世界が我々が常識としている世界とは違う、眩暈のするような世界観もある。
- ⑲ 戦争の指揮は、誰ならできるか？
- ⑳ 縄文と、江戸。長く戦争がなかつた。日本文明でなければ、戦争は無くならないのではないか。
- ㉑ アメリカの因果応報 書籍『銃、病原菌、鉄』の観点
- ㉒ 帝国主義の時代、白人支配の地球を解放するために、日本は良いことをした、その精神が正しかったことに疑いはない。

A (国旗バッジ剥奪訴訟) 裁判所の屋上には国旗が常時掲揚されている。

裁判所法廷のすべての部屋にも、見えなくても大きな国旗が掲げられているが、清水裁判官には分からなかった。  
第5回は10月5日(木)裁判所は結審させたかったが、当方弁護士の頑張りで、継続になった。この日は、横田めぐみさんの お誕生日だった。次回は12月14日(木)午後4時から。

B (ブルーリボン訴訟) 10月26日(木)午後3時。大阪高等裁判所。控訴審第一回期日が終わった。

「結審」と裁判官は言い、当方は、政府の見解を聞きたいとして「和解」を申し入れた。産経、小島新一氏の記事良し。裁判官の保身などで対応してよい裁判ではない。<http://hujii.jugem.jp/?eid=80>

C いずれ新国連ができるが「新国連」の常任理事国に我が国は必ず入らねばならない。チャイナの後継国家を、常任理事国にさせてはいけない。もちろん「ロシア」も。

D 大英帝国が精神的に復活すれば、英國は香港を取り戻すだろう。

E 米国が分裂して内戦になったとき、我が国は連邦政府を支えるほうに回るべき。アメリカを日本が守る。

第7艦隊は日本が買取る。

F 「靈感」のある宗教家も「無私」でなければ道を間違う。

G 巨大隕石の空中爆発は偶然ではない、誰が守ってくれている。

H 西暦2040年、我々は日本を完全に再興しおわっており『紀元2700年祭』を盛大に挙行せねばならない。

(推薦図書)

- 「安倍晋三黙示録」 (MDN) 西村幸祐 「日本よ歴とした独立国になれ」 (ハート出版) 山下英次  
「日本民族の叙事詩」 (展軒社) 西村真悟 「新『NO』と言える日本」 (高木書房) 金文学  
「日本人だけが知らなかつた安倍晋三の眞実」 (ワニブックス) 西村幸祐  
「甘粕正彦 亂心の曠野」 (新潮文庫) 佐野眞一 「ヤオイズム」 (三五館・明窓出版) 矢追純一  
「シャンカラ」 (清水書院) 島岩 「銃、病原菌、鉄」 (草思社文庫) ジャレド・ダイアモンド  
「英国諜報員 アシェンデン」 (新潮文庫) サマセット・モーム  
「宇宙を味方につけるこころの神秘と量子の力」 (明窓出版) 保江邦夫 はせくらみゆき  
「火の鳥 望郷編」 (角川文庫) 手塚治虫 「高橋洋一のファクトチェック」 (WAC) 高橋洋一  
「逝きし世の面影」 (平凡社) 渡辺京二 「花と火の帝」 (日本経済新聞社) 隆慶一郎  
『良心をもたない人々』 (草思社文庫) マーサ・スタウト 「パラレルワールド」 (NHK出版) ミチオ・カク  
「妻子の死からホームレス支援へ」 (アートビレッジ) 石黒大圓 「天皇」 (廣済堂) 矢作直樹  
「我、国連でかく戦えり」 (ワニ・プラス) 藤木俊一 「不況克服の経済学」 (同文館出版) 丹羽春喜  
「日本とアメリカを襲う21世紀型戦争の正体」 (経営科学出版) ロバート・スバルディング、河添恵子他訳  
「暴走する新自由主義」 (経営科学出版) ポール・クレイグ・ロバーツ、小谷力訳  
「パラレルワールド」 (NHK出版) ミチオ・カク 「財政破綻論の嘘」 (経営科学出版) 三橋貴明  
「秘密結社ヤタガラスの復活」 安江邦夫・雑賀信朋 「神の物理学」 (海鳴社) 安江邦夫  
「僕が神様に愛されることをいとわなくなったワケ」 (青林堂) 安江邦夫  
「僕は一生をかけて『神』をみつけたのかもしれない」 (海鳴社) 保江邦夫  
「ありのままで生きる」 (マキノ出版) 安江邦夫・矢作直樹 「太平洋戦争の大嘘」 (DIRECT) 藤井巣喜  
「失われた日本人と人類の記録」 (青林堂) 矢作直樹・並木良和  
「死は存在しない」「運気を磨く」 (光文社) 田坂広志 「すべては導かれている」 (PHP) 田坂広志  
「世界のニュースを日本人は何も知らない」 ①②③ (ワニブックス) 谷本真由美  
「日本をウクライナにさせない」 (WAC) 大高未貴 「フィンランドの覚悟」 (扶桑社新書) 村上政俊  
「空海と密教」 (祥伝社黄金文庫) ひろさちや 「韓非子 悪とは何か」 (産経セレクト) 加地信行  
「アメリカの小学生が学ぶ歴史教科書」 (ジャパンブック) 村田薫  
「アメリカの崩壊」 (方丈社) 山中泉 「日本人に隠しておけないアメリカの崩壊」 (ハート出版) マックス・シュラー  
「親日韓国人ですが、何か?」 (悟空出版) WWUK×呉善花 「裏から見た支那人」 (DIRECT) 笠井孝  
「国家の尊厳」「違和感の正体」「バッシング論」 (新潮新書) 先崎彰容  
「自立国家日本のつくり方」 (DIRECT) 北野幸伯 「ウクライナからの教訓」 クライティリオン2022、7月号  
「ケーキの切れない非行少年たち」 (新潮新書) 宮口幸治  
『ポリコレの正体』 (方丈社) 福田ますみ 「自省録」 (岩波文庫) マルクス・アウレリウス  
(南木が繰り返し推薦する名著) 「隠れていた宇宙 下」 (早川書房) ブライアン・グリーン  
「ツキの大原則」 (現代書林) 西田文郎 (その他 映画 等) 「フライング・タイガー」 DVD1942年アカデミー賞受賞作主演ジョン・ウェイン・・アメリカが先に参戦していた事の自白に等しい。「モロッコ」 DVD1930年主演マーネ・ディートリッヒ・・戦場慰安婦は万国共通。(以上)